

小さな発想から創意工夫の実行

駒ヶ根森林管理センター・宮田森林官 西村 善吾
大鹿森林官 松川 淳平

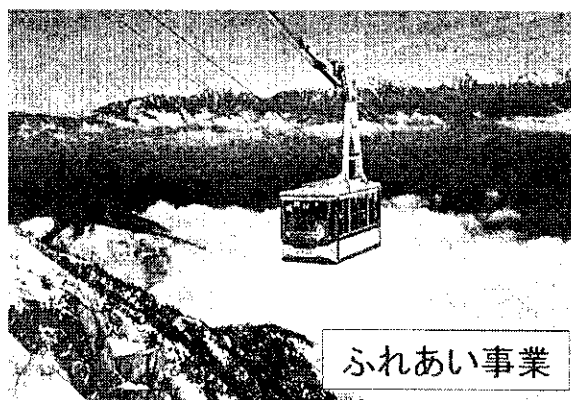
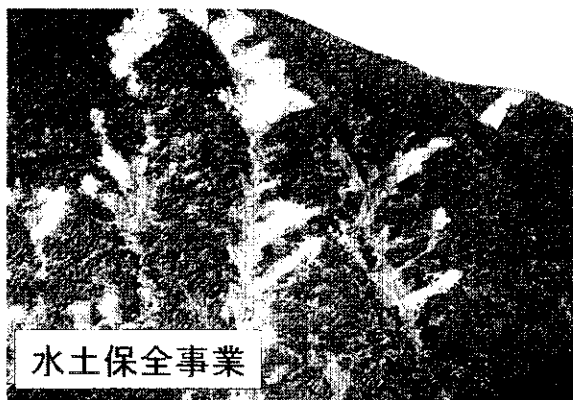
要 旨

国有林の再編は、公益林を8割とし「国民の森林」とした意識改革とドラマの展開を求めている。何をもって「国民の森林」として地域に応えるのか、創意工夫によるソフト事業を展開したので何等かの端緒となればと思い一考察として発表するものである。

はじめに

当森林管理センターは、全国有数の治山事業を行い、東洋随一の中央アルプス駒ヶ岳ロープウェイによる山岳観光地として活用され、管内全域は公益林である。

国有林の管理経営で、「国民の森林」として、地域に何をもって応えるのか、一考察として職員が「小さな発想から創意工夫」により様々なソフト事業を展開したので発表する。



1 治山事業とPRについて

- (1) 当管内は、中央構造線の直下で大崩壊地が多く、多様で複雑な地理・地形であることから、水土保持林事業は、地域から大きく期待されている。

崩壊地は、従来から丸太筋、丸太積等で復旧を図ってきたが、さらに利用頻度の低い中径丸太を活用すべく設計・施工した。

結果は、施工性も良く、工事廃材とゴミの「持ち帰り運動」の推進を併せ行い、間伐材利用促進と環境保全の推進ができ、見事に自然と調和したのである。



(2) 治山事業のPRとしては、国有林の場合、奥地の水源地のため木柱を立てるのが精一杯である。さらに民有林直轄治山事業においても、パイプ組み看板などによるPRに止まっている。

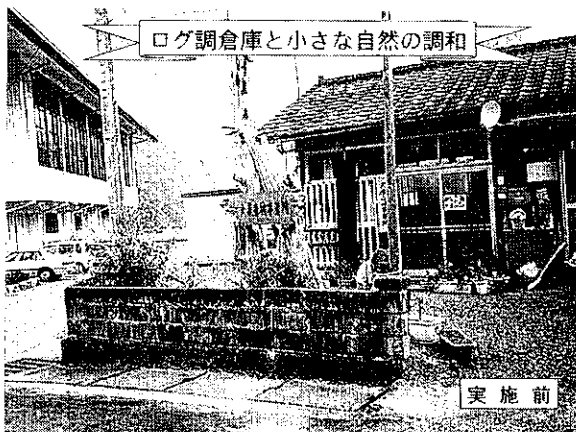
今回の工夫は、駒ヶ岳ロープウェイへ通じる県道沿いで、現地の巨石を活用したPR看板を設置し観光客に治山事業をアピールした。



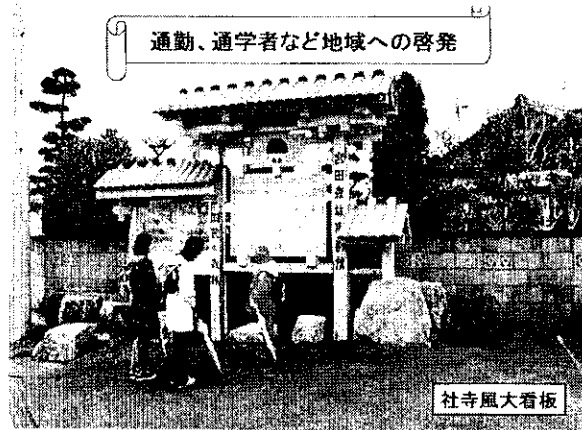
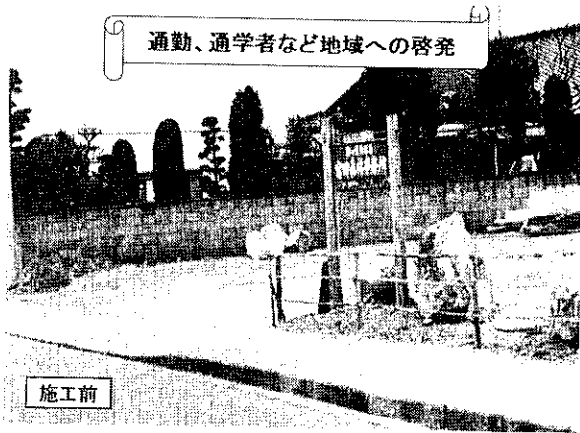
2 「実行して見せる」地域への啓発について

(1) 大鹿森林事務所は、地域の顔、窓口として大鹿村小学校の正面に位置し、学校教育のエリヤ内であることから、国産材利用のログ調倉庫と転石等、自然の資材の活用で、小さな自然を再現し「実行して見せる」啓発を試みた。

ログ調倉庫と小さな自然との調和による、「木の温もり自然の素晴らしさ」のPRは、村内の話題となり、小学生、先生にも少なからずも教育の場となっている。



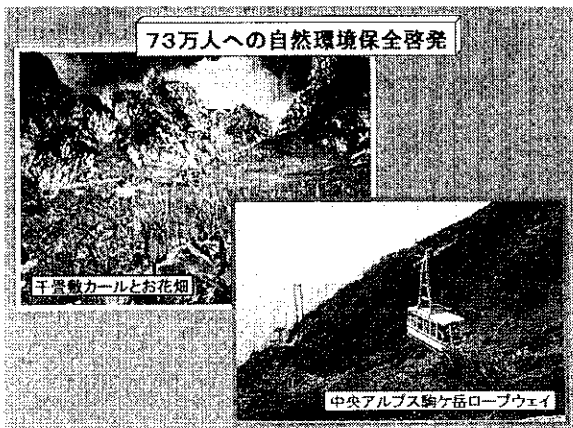
(2) 宮田森林事務所は、JR飯田線宮田駅、宮田小学校に隣接し、通勤・通学の村道に面しており、ソフト事業の好条件にあることから、掲示板の更新に併せ国有林のPR看板を設置した。社寺風の大看板は、通勤・通学さらに村民の皆さんの懇談の場となり、森林事務所の広告塔として期待に込めている。



3 73万人への自然環境保全啓発について

県立自然公園である中央アルプス駒ヶ岳一帯は、年間73万人が訪れ、駒ヶ岳ロープウェイを利用して雄大な自然景観と触れあえる山岳観光地である。その玄関口である「しらび平駅」一帯は、最盛期にはロープウェイ乗車待ち2～3時間と混雑し、ソフト事業面で大きな課題となっていた。

このことから、ソフト事業の第一歩として樹齢推定450年イチイの巨木などの被害木を活用した「自然環境保全啓発」看板を設置し、ソフト面で記念写真の格好の場となりその効果は現れている。

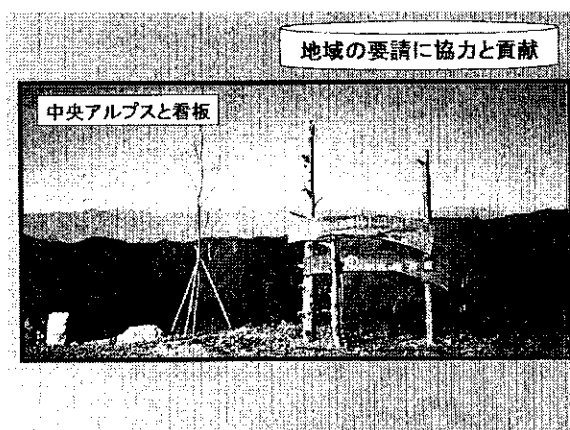


4 地域からの要請と協力について

「歌舞伎の里」大鹿村の大池高原一帯は、気流が安定しパラグライダーの基地としてシーズン中は、中央アルプス・南アルプスを眼下に、鳥となる若者でにぎやかである。

中央アルプス等の眺望が良いことから、国有林のPRを兼ね村に技術とノウハウを売込み、地域の要請に協力した彫刻看板は、アルプスの各峰を知ることができ好評を受けている。

PR看板等によるソフト事業の効果は、感性と場所の選定などの条件が課題である。



5 小さな自然の修景施業の一例について

「不動滝」は、駒ヶ根高原に近く地域では身近な名称となっているものの、林道からは、見にくい状況であることから、視点を定め、間伐、枝打ち、除伐などの修景施業を行い看板を設置した。

国有林野は、小さな自然を含め観光資源が豊かである、この一例は、目的を定め、中途半端を排除しハッキリさせたにすぎない。

このことで、宮田村観光協会は喜んでおり、遊歩道、あずま屋等の設置の検討を始めたのである。



6 林業後継者の育成について

林業後継者を育成する目的で、「上伊那農業高等学校」の学生に林業体験の場を提供した。学生たちはヒノキの植栽と、カモシカ被害対策作業（プロテクター設置）などを体験した。昼食の後は、溪流の清らかな雪解け水に触れ、飛び込むなどむじゃきな姿もみせ、「良く学び、良く食べ、良く遊び」ことができた。

何としても、「後継者の育成に貢献したい」との発想からですが、このうちの何人かが後継者となることを期待しているところである。



7 職場環境対策について

(1) 当森林管理センターでは、快適な職場及びメンタルヘルス対策として職場環境の整備を実施した。

ア、庁舎玄関の屋内庭園と季節写真などのパネルを展示。

イ、事務室に観葉植物を配置し緑の導入。

ウ、現場を含めゴミの分別及び焼却炉の全面廃止。

エ、通年禁煙タイム制を実施。

オ、事務室内にBGMを流す。

このことは、一部新聞報道されておりますが、職場空間の創造、健康管理及びメンタルヘルス対応による安全活動など、明るく楽しい職場環境の改善で、その関わりは深いものと確信している。

情報社会における精神衛生面のソフト事業は課題が多い中であって出来ることから実施したもので、一時的なものとならず継続維持させる創意工夫が課題である。



8 成果と課題

- (1) 地域から産業振興等に反映出来ると、企業的努力の評価は高い。
- (2) 将来を担う子供たちに、森林・林業、自然の尊さなど啓発効果は好調。
- (3) 自然環境に配慮した施工やゴミの分別など自然環境保全の推進は高い。
- (4) 職場環境の改善により、安全の確保、問題意識高揚の推進が図れた。
- (5) 小さな発想と創意工夫体制及び空間創造の展開など人材の育成と環境作りが必要。

おわりに

国有林野の再偏は、始まったばかりである。

自然を創造出来る「唯一の行政機関」として、公益的機能の発揮を基本に、過去の実績と技術に自信と誇りを持ち、小さな発想と創意工夫体制を大切しながら「森林・林業、研究、教育、冒険、感動」の触れ合いのドラマを展開し、引き続き地域の期待に応じて行く事としている。

